

# 大潟区 第55号 地域協議会だより

発行日 令和5年12月25日  
発行 大潟区地域協議会  
会長 佐藤 忠治  
編集 会報編集委員会  
事務局 大潟区総合事務所  
総務・地域振興グループ  
電話 534-2111

## 地域自治の転換期にあたって

会長 佐藤 忠治



域協議会の「ゆるやかな拘束力」の相手方は、住民ではなく、総合事務所や市役所の関係部課に対し「強い努力義務を課す」ことである。」

この文言は、平成21年から合併前上越市域にも地域自治区制度を導入するにあたって市が立ち上げた研究会がまとめた「上越市における都市内分権及び住民自治に関する調査研究報告書」（平成19年1月発行）の中で地域協議会委員の選任方法と協議会の権限（決定権）の関係について述べられている一文です。

令和6年1月1日は、旧大潟町が旧上越市に編入合併されてから19年目を迎えます。また、4月には地域協議会委員の6期目の改選期にあたります。大規模な合併に伴い、住民の声や意見が行政に届きにくいということ、総合事務所と地域協議会を置く都市内分権の充実が求められる転換期にあります。

今年も住民の皆さんの声を吸い上げられるように創意工夫を積み重ねていきたいと考えております。よろしくお願い致します。



朝日池に飛来した白鳥・鴨

新しい年を迎えるにあたり、日頃より地域協議会に対してのご理解とご支援に心より御礼申し上げます。皆さんのご多幸とご活躍を祈念します。

皆さんは「ゆるやかな拘束力を有する」という言葉を聞いたことがありますか。

『地域協議会委員選任において「準公選制」の導入により、市長やその他の機関に意見具申や諮問答申を行なっている運用上の特徴から「ゆるやかな拘束力」を有するものと推移している。また、地

## 今後の地域協議会について

副会長 俵木 晴之

新年を迎えるにあたりお慶び申し上げます。

令和6年は辰年です。辰龍は伝説上の生き物ですが、「龍」が現れると「おめでたい事が起きる」と考えられているとのことです。地域経済が活発になり、景気も回復し、コロナ禍前の様な生活環境に戻れることを期待するばかりです。

今期の地域協議会も残すところ僅かとなって参りました。四年間の振り返りは大事です。大潟区での地域協議会のあり方や問題点などを取りまとめ、これまでの取組みを総括しなければなりません。併せて、昨年度末に終了した地域活動支援事業について、採択された事業の内容や備品の有効活用などの適正性についての精査も必要です。また、全地域協議会が市へ提出している「地域活性化の方向性」について、大潟区ではその中の構成要素のひとつである「地域の魅力の向上」について深掘りを始めているところです。2月に予定している活動報告会でこれまでの活動内容を報告し、各団体から意見を聴取して、地域協議会だより第56号に掲載する予定です。

残された協議事項の解決と地域貢献を基に、残任期間を手を抜く事なく、次期委員へスムーズに引き継げるよう、最後まで気を引き締めて参りたいと思います。

地域協議会委員研修報告

【視察研修】

里山・越後妻有の地域再生

～NPO法人越後妻有

里山協働機構を訪ねる～

関清

11月18日(土)十日町市松代で「大地の芸術祭」を主催するNPO法人越後妻有里山協働機構への視察研修に参加した。

ほくほく線の松代駅裏にあるまつだい「農舞台」に隣接した「まつだい郷土資料館」で、同機構の長津晴菜さんからスライドを使って、3年に1度開催される国際的な芸術祭「大地の芸術祭」について講演をしていた。

「越後妻有」という名称は大地の芸術祭から生まれ、新潟県南部に位置する十日町市と津南町を合わせた地域の名称である。東京23区とほぼ同等の面積を有し、棚田や川、河岸段丘、田園というダイナミックな自然条件と過疎集落、空き家、廃校、高齢化が進む地域だ。平成の大合併以前は十日町市・川西町・中里村・松代町・松之山町



・津南町で構成されていた。

当初、地域社会から猛烈な反対が起ったそうだが、それを説得したのがボランティアグループ「こへび隊」の若き女性たちの活動であった。やがて「嫁に來ないか」という冗談話もできる間柄になり、現在では農家の方たちから応援をいただくまでになったとのことである。

説明していただいた郷土資料館は、昔、庄屋をしていた豪農の家を移築した建物で、柱や梁の素晴らしさは豪雪に耐え生活の豊かさがかがえた。

昼食は、越後まつだい里山食堂を利用した。郷土料理を現代風にアレンジしたメニューは、

棚田のご飯がすすむおいしさで、店内から見える棚田に展示された作品も楽しめた。

鉢&田島征三

絵本と木の実の美術館

午後は、絵本作家・田島征三の作品が展示してある廃校を利用した「鉢&田島征三 絵本と木の実の美術館」を見学。芸術の凄みの一端を垣間見た思いであった。我がまちの子ども達にも日がな一日ここで遊べたらと思わず願った。今は美術館となった閉校した小学校のある集落は、傾斜地で耕地の少ないところであったが数十軒のしっかりした家々があった。

2024年 大地の芸術祭

7月13日～11月10日

この研修視察を終え、大潟のエリアの魅力として芸術家が表現するとしたら、それはなんだろうかと考えた。やはり海だろうか。潟湖かもしれない。街道かもしれない。街道沿いの家々だろうか。

ともあれ「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ2024」の準備はスタートしている。堪能してみるに足る祭だと思ふ。

【頸北地区地域協議会委員 合同研修会】

合同研修会に参加して

中野 幹根

11月25日(土)ユートピアくびき希望館にて「頸北地区地域協議会委員合同研修会」が開催され、大潟区から10名の委員が参加した。

「日本の中の上越・頸北」をテーマに中西聰氏(上越市教育委員会歴史文化指導監)からの講演を興味深く聴いた。

「二人のケンシンの視点から」という副題のケンシンが力タカナであることに目がいく。



一人は間違いなく上杉謙信公であると思っただが、もう一人は誰だろうと早くも内容に引きつけられた。

もう一人は親鸞聖人とのことであつた。親鸞聖人についてあまり知識が無く、上越に流されて直江津に上陸されたことくらいしか知らなかつた。流された先がなぜ上越だったのか。日本の中で、上越はどのような位置にあつたのかと話は進んだ。実は東西文化の境目、接点がこの越後上越であつたことが流罪先に選ばれた理由の一つではないかということであつた。上越では縄文時代の東西の土器が出土していることから、古代より文化の交流地点であつたことを知り、驚くと同時に不思議な気持ちになつた。

後半は謙信公の話に移るが、今度は日本の中の上越から、上越の中の頸北へと視点が変わった。中世の遺跡からは文化交流の証拠となる貴重な品々が発見されているそうだ。頸北のこの地域の素晴らしさを再認識した次第である。

講演の最後を中西氏は「くびきはひとつなり」と投げかけ、この重みを噛みしめながら晩秋の家路を急いだ。

### 自主的審議事項

#### 大湯野外活動施設廃止後の跡地の有効利用について



地域協議会は、第5回地域協議会（8月24日）において自主的審議事項「大湯野外活動施設廃止後の跡地の有効利用について」（案）を審議・決定し、上越市長宛に同月29日付けで意見書を提出しました。同意見書に対し、10月20日付けで回答を得ました。

#### 意見書の内容

大湯野外活動施設の廃止後、大湯観光協会が貸付を受けて敷地を利用する場合には、維持管理や経費の面で大湯観光協会が過度な負担を負うことのないよう次の①点に留意し、協議を進めていただくことを要望します。

①大湯観光協会では、跡地をキャンプサイトとして活用するとしてもキャンプ場収入の大幅な増加は困難と予測されることから、貸付する場合は使用料は、無償若しくは低廉な貸付料とする。

②市は「施設廃止後にトリム施設を撤去する」としているが、まだ使用できる遊具も見受けられ、キャンプ場の特徴ある付属施設としても活用できることから、全て撤去するのではなく、使用できる遊具は現状のまま残すことを検討いただきたい。

③貸付を受ける敷地内に残置された松くい虫防除等で伐採した雑木等は、撤去すること。なお、大湯野外活動施設は、夕日の森公園と散策道で結ばれているなど地域住民には重要なエリアとなつていることから、その跡地及び周辺の一体的な施設環境の維持に努めること。



#### 市からの回答の内容

令和5年8月29日付けで提出のあつた意見書について、下記のとおり回答いたします。

上越市公の施設の適正配置計画において、大湯野外活動施設は「利用実態を踏まえ、地域団体へ貸付又は譲渡する」としていることから、これまでの管理実績があり、今後も施設の有効活用に向けた管理運営が期待される地域団体である大湯観光協会へ貸付ける方向で協議を進めていくこととしています。

協議にあたりましては、貴協議会からいただいたご意見も踏まえ、引き続き当該施設が有効活用されるとともに、景観にも配慮した適切な維持管理が図られるよう、大湯観光協会からのご意見を伺いながら検討してまいります。

## 大潟区地域協議会の開催状況（令和5年7月～令和5年12月）

第4回	7月27日 (木)	①自主的審議事項「大潟野外活動施設の今後の活用について」 ②地域独自の予算について ③視察研修について
第5回	8月24日 (木)	①自主的審議事項「大潟野外活動施設の今後の活用について」 ②視察研修について
第6回	9月28日 (木)	①視察研修について ②今後の審議事項について
第7回	10月26日 (木)	①大潟野外活動施設廃止後の跡地の有効利用について（意見書）に対する回答について ②今後の協議事項について
第8回	11月22日 (水)	①令和4年度の大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館における市及び指定管理者の収支状況等について ②大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館の利用料金の改定について ③第2次上越市総合公共交通計画後期再編計画の策定について ④今後の協議事項について
第9回	12月21日 (木)	①大潟工業団地の整備について ②諮問事項：上越市青少年野外活動施設の廃止について（大潟野外活動施設） ③地域活性化の方向性の課題の整理について

## 視察・勉強会・研修会などの開催状況（令和5年7月～令和5年12月）

視察研修 (十日町市松代)	11月18日 (土)	①NPO法人越後妻有里山協働機構 講演「大地の芸術祭について」、まつだい郷土資料館の見学 ②絵本と木の実の美術館の見学
頸北地区地域協議会委員 合同研修会 (ユートピアくびき希望館)	11月25日 (土)	①講演「日本の中の上越・頸北～二人のケンシンの視点から～」 講師：中西聰さん（上越市教育委員会歴史文化指導監） ②意見交換会：各区の現状・課題に係わる交換会



### 地域協議会

### 活動報告会のお知らせ

日時 令和6年2月29日（木）  
午後6時30分～  
会場 大潟コミュニティ多目的ホール  
内容  
・令和2年度から5年度までの活動報告  
・地域協議会委員の公募の説明

※詳細は大潟区総合事務所総務・地域振興グループへお問い合わせください。  
☎025・534・2111



### 編集後記

▼12月になりました。▼年末年始の準備を始めるこの時期は雪の降り方が心配になります▼今年はいンフルエンザなどによる学級閉鎖も増えているとのこと、ひとりひとりの健康管理が大事な季節です▼毎日のうがい、手洗い、免疫力を上げる食事を心がけましょう▼早いもので地域協議会委員の任期もあとわずかとなりました▼地域協議会では4年間を総括しながら、最後を締め括りたいと思っています▼（五十嵐郁代）

### 編集委員

五十嵐 郁代  
五十嵐 公子  
金澤 信夫  
俵木 晴之